



6月24日に発生した「オンラインサービスでの大規模なシステム障害」について、JR東日本は「電源工事の手順書の誤りが原因である」と発表しました。

また、今年3月に発生した川越線の「単線区間に上下線の電車が同時進入」した事象では、運行を制御するシステムの欠陥であったことが報道されています。交通システムに詳しい専門家は「重大なインシデントとして徹底調査をするべきである」と厳しく指摘しています。

この間、安全を脅かす事故・事象が後を絶ちません。いまJR東日本に求められていることは個人への責任転嫁ではなく、二度と同じ事象を起こさないために「なぜ発生してしまったのか」という核心に迫る原因究明と事故予防です。

「会社施策」や「労組対策」のみが優先され、多くの優秀な“人財”が将来に見切りを付け会社を去っています。その弊害が、各系統での「現場対応力」の低下につながっています！

「人」と「経験労働」を大切に「現場対応力」を高めていくことが必要です！

**現場の対応力が大きく低下！  
相次ぐ事故・事象を招く原因だ！**